

事務事業名	コミュニティキャンパス推進事業	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課	
総 計 画 体 系	政策名	(I) みんなで築くまち《協働・行政経営》	所属G	チャレンジ創生G	課長名	熱田勇二
	施策名	(01)市民が主役のまちづくりの推進	担当者名	須山雄介	電話番号	0854-40-1011
	目的 対 象	市民	意 図	まちづくりの課題を主体的に解決する。	(内線)	2333
	基本事業名	(002)まちづくりの人材確保	予算科目	会計 款 大事業 大事業 0 1 1 0 0 1 事業名 項 目 中事業 中事業 0 5 3 5 2 1 事業名	企画総務管理事業 コミュニティキャンパス推進事業	
目的 対 象	活動している市民	意 図	活動のリーダー・担い手を確保する。			

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (27 年度～)
② 事業内容	(期間限定複数年度事業は全体像を記述) 大学機関や地域、市内で活動するNPO等と連携し、大学生の学びの場となる「雲南コミュニティキャンパス」(通称:U.C.C)を開校して、地域等でのフィールドワークやインターンシッププログラムを通じて、大学生を雲南市の地域課題を解決する課題解決人材として育成・確保を図る。

(2) 事務事業の手段・指標

手 段	① 主な活動	29年度実績(29年度に行った主な活動) ・スタートアップ合宿(開校式)の開催 ・インターンシップ、フィールドワークプログラムの実施 ・成果報告会の開催 ・平成30年度計画の作成	30年度計画(30年度に計画する主な活動) ・スタートアップ合宿(開校式)の開催 ・インターンシップ、フィールドワークプログラムの実施 ・企業と連携したインターンシップの実施 ・成果報告会の開催 ・平成31年度計画の作成			
	② 活動指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	ア 事業ビジョンの策定	式	1	1	1	1
	イ インターンプログラム等の実施	回	5	5	10	10
	ウ 推進委員会の開催	回	0	2	2	2
	エ 全体会等の開催(開校式・成果報告等)	0	0	2	3	3

(3) 事務事業の目的・指標

目 的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	①市民 ②学生	ア 人口(推計人口)	人	39,032	38,506	37,794	37,987
		イ 大学生数(文科省調査)	千人	2,860	2,874	2,891	2,890
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①積極的に学生と交流する。 ②雲南市の地域課題を知り、地域等と解決に向け取り組みを行う。	ア UCCに参加をきっかけにUターンした雲南出身の学生数	人	0	0	0	3	
	イ UCCの参加をきっかけにUターンした学生数	人	0	0	1	2	
	ウ UCCをきっかけに市内の地域活動に複数回参画した学生数	人	15	30	31	24	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (29年度決算)	② コストの推移	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(計画)
・謝礼金 484千円	財 源 内 訳	国庫支出金	千円	1,253	7,218	5,310
・旅費 351千円		県支出金	千円			
・需用費(消耗品費) 48千円		地方債	千円			
・役務費(手数料) 97千円		その他	千円			5,310
・委託費(運営支援等) 7,414千円		一般財源	千円		337	8,778
・使用料 384千円	事業費計(A)	千円	1,253	7,555	8,778	10,780
合 計 8,778千円	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2
		延べ業務時間	時間	1,000	1,000	2,000
		人件費計(B)	千円	3,914	3,967	8,154
	トータルコスト(A)+(B)	千円	5,167	11,522	16,932	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
地方創生総合戦略の重点プロジェクトの一つとして位置づけ、事業推進を図っている。これまで本市に関わった学生が自ら主体的な活動を行った結果、学生達の活動拠点が設置され、インターン者が1名出るなどの成果が生まれている。	H28年度より本格的に実施している。実施以前(H27)より市内での活動に複数回参加する学生の人数は倍増しているが、学生がより主体性をもち、長期間活動できるようプログラムを改善しつつある。	これまで積極的に大学生を受け入れた地域から、今後も学生の意見等を取り入れ地域課題解決に取り組みたい要望がある。一方、大学からも市内での活動を推進することにより、学生の育成を進めたい要望がある。また、市内企業からインターンシッププログラムを求める要望がある。

事務事業名	コミュニティキャンパス推進事業	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	市内の取組に複数回参加する学生は増加しているがUターンは低調である。市内企業等との連携を深め、Uターンに向けた取組を強化する必要がある。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	大学機関のない本市において、学生の大半は高校卒業とともに本市から離れてしまう。本事業を廃止すれば、学生を課題解決人材として育成する機会を失い、子ども×若者×大人チャレンジの連鎖に影響がある。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	類似する事業はない。		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	学生の取組をコーディネートするノウハウを市内(市役所、市内団体、企業、地域自主組織等)に蓄積することで委託費の削減につながる余地がある。		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がない			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	将来的に、本事業を市内のNPO等が自立的に実施できる体制へ移行を進めることにより、人件費の削減をめざす。		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がない			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	市内の地域課題の解決を図り、市全体のまちづくりに寄与する事業であり、公平・公正である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
		B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		人口の社会増に寄与するため、市内企業等と連携して、学生の”出口”(受け皿)を確保していく必要がある。インターンプログラム等の受入れ・実施に多くの時間や労力を要しているため、効率的な受入れ・実施体制を確立していく必要がある。		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																							
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上	●																						
	維持			×																				
	低下		×	×																				
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の育成と定着を意図し、学生へのアンケート調査などを行うとともに、学生の専攻や就業希望職種などのニーズに合ったプログラムを企画し、より効果的な事業になるよう事業改善を図りたい。 ・インターンプログラム等において、市部局間の連携をより一層進めるとともに、事業推進体制に地域や大学機関等のより一層の参画を得ることにより、取組内容のレベルアップや認知度を高め、学生の育成確保の拡大につなげたい。 ・学生がより深く雲南市に関わり、かつ主体的に活動が出来るよう、プログラム内容の改善、強化を図りたい。 	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																							